

## [海外研究・教育活動]

## 看護学科米国ロスアンゼルス研修記

新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科 栗原 弥生

看護学科では2009年3月16日から3月27日まで、1年生4名2年生10名で国際看護論の単位となる海外研修を行いました。主な目的は、異文化における医療・看護の事情を理解し、国際看護の基礎知識および学習の動機づけとすることでした。

昨年のオーストラリア研修は、ホームステイをしながらモナッシュ大学内で文化の違いや看護の違いを学びましたが、今回のロスアンゼルス研修は内容が全く違い、主に病院の見学・研修が多い内容となりました。

この研修は、全米で3位という出来たばかりの新しいUCLAの病院で研修や、ディズニーがデザインした小児病院の研修、さらにアメリカにはほとんどなくなってしまったホスピスでの研修も出来ました。

この研修の最もすばらしかったことは、Atherton Baptist Homes という総合シニアコミュニティでのボランティアが出来たことです。この施設で、学生はパフォーマンスと高齢者とのコミュニケーションを行いました。全員が英語でプレゼンテーションをしました。新潟医療福祉大学の概要や新潟の説明をわかりやすく絵を使って行い・日本語の歌を歌い・Top of the world を英語で歌ったり、バルーンアート・折り紙でのコミュニケーションなど認知症のある高齢者とともに様々なことを行いました。これらを行うために、学生達は、何日も前から練習をし、必要物品を準備していました。前日も、夜の2時過ぎまで歌の練習をしたり、折り紙を折って模造紙に貼ったり、絵を描いたり、英語の文章を考えたり、発音の仕方を工夫したりと寝る間も惜しんで準備をしたおかげで、すばらしい内容のパフォーマンスが行えました。

学生の純粋な気持ちとやる気と高齢者のために何かをしようという心と行動力に驚かされた1日でした。しかしながら、高齢者と英語で流暢に話すまでには至らず、もっと話したかったと悔しがる学生も多かったのですが、学生の純粋な思いが伝わり、高齢者の居室まで送っていった学生は、なかなか離してもらえないという体験もしました。自分達の可能性を充分感じる事が出来た貴重な体験だったと思います。

看護学科では、長期の休みに実習が入り、いい時期に海外研修を組み入れることが難しい現状にありますが、さらに内容を検討して良い海外研修になるようにしていきたいと思っています。



アメリカの看護大学の  
学生と知り合いに



バルーンアートをプレゼント



Little Company of Mary Hospital